

連長
石森会

原油40ドル前後で推移

欧米の移動制限など注視



石油連盟の杉森務会長
(ENEOSホールデイ
ンクス会長)は20日に定
例会見を実施し、足元の

需要動向や原油価格の展
望について語った。原油
価格(ドバイ)の展望に
ついては「今後1カ月は
40ドル前後で推移するだろ
う」との予想を示した。
10月後半に一時30ドル代
中盤まで割り込んだ原油
価格は、直近で44ドルまで
回復した。杉森会長は会
見で「需要面では欧米・
中国の好調な経済指標や
新型コロナウイルスの開
発結果が好感された。供
給面では、石油輸出国機
構(OPEC)加盟国と
ロシアなど主要産油国で
構成される『OPECプ
ラス』が、日量770万
バレルの協調減産を2021

年1月以降も検討するこ
とが伝わった」と振り返
った。今後、「欧米の移動
制限再強化や12月1日に
予定されているOPEC
プラスの会合に注目した
い」と語った。

国内の燃料油需要は堅
調な状況が続く。10月の
想定内需では「ガソリン
が前年同期比100%、
灯油が150%だった」と
述べた。11月は新型コ
ロナ感染拡大の影響が懸
念されるが、現状では主
要石油製品の4油種で95
%程度の需要が見込まれ
ている。「ガソリン需要に
対するコロナのマイナス
影響は2%だろう。政府
のGO TOキャンペーン
の需要喚起が2%程度
あり、コロナ影響が相殺
されている」と語った。

ウメト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年 11月 20日

担当者: 岩崎

ワクチン報道で激し変動

ブレント先週45ドルへ急上昇

原油価格

【ニューヨーク19日ワシントン19日】原油価格は6月以降、約40%前後で立ち往生していることが多いものの、変動性が戻ってきているようだ。COVID19（コロナ）新型ウイルス感染症のワクチン実用化の秒読みのニュースを受け、ベンチマークのブレント原油は先週、5カ月間続いた最安値36ドル前後から45ドルへ急上昇している。こうした展開により移動性が戻ること予想以上に速く石油需要が回復する可能性があり、欧米を現在、苦しめている新型ウイルス第2波を反映した改定後の予測は覆されている。

激戦となった米国の開戦しているCOVID19の大統領選、リベアの生産量増加、制裁の対象となつているイラン・ペネエラによる供給量が来年度増加する可能性を含めた多くのリスクが存在するが、問題は市場が先走りしているからか。こうしたリスクや進行中の新型ウイルスのパンデミック（世界的大流行）による継続的な需要への圧力を考慮すると、原油価格は急落する前なのかもしれない。米国の製薬企業ファイザーとドイツのバイオテクノロジー企業バイオンテックが共同で

専門家は、第4四半期（10-12月）の世界需要の予測を平均150万バレル下方修正している。市場が正常に戻る一番確実な方法はワクチンだが、流通には時間がかかる。その場合でも、COVID19後の世界でニューノーマル（世界金融危機後の新しい状態）がどのようなものになるのかわからない。しかしそうした上昇傾向が持続するかどうかは今のところ不明である。新たなロックダウン（都市封鎖）措置が原因で、主要な予測

性がある一方、ワクチン拒否する者もいるかもしれない。来年は、COVID19により生じた習慣が定着するのかが明らかになるはずだ。在宅勤務の増加と通勤・出張の減少は、輸送燃料需要に恒久的な影響を与えるだろう。

IEG（エナジー・インテリジェンス・グループ）は、世界の石油消費量が2020年、前年比800万バレル減少し2021年に5200万バレル回復すると予測している。それでも2019年の水準を約3000万バレル下回るが、ワクチンが市場のセンチメントと実際の消費量の双方を上向かせるだろう。車や飛行機による移動が増加して貿易が回復すれば、そうした差は縮小するだろう。

OPEC（石油輸出国機構）は、2020-2021年の需要の成長の見通しを平均30万バレル引き下げたが、ワクチンの進展については楽観的である。各産油国に対する供給量の維持に関する圧力が続いているが、それが弱くかどうかは確信できない。

OPECプラスが12月1日に現行の減産を延長し、2021年1月1日の2000万バレルの供給量増加を阻止するかどうか決断する必要がある。市場のリバース維持と在庫縮小に欠かせない決断だ。米国の対イラン制裁措置が緩和されてリビアの和平協定が持続した場合、イランとリビアが2021年、市場に追加で100万バレル供給する可能性がある。金融企業ゴールドマン・サックスは、OPECプラスが1月1日以降も現行の770万バレルの減産を継続し、当初予定していた570万バレルへの減産緩和を延期すると顧客の多くが考えていると述べている。サウジアラビアのアブドゥルアジズ・エネルギー相は、現在在庫はほぼすべて排出に欠かせない決断だ。米国の対イラン制裁（燃料油脂新聞）

たあらゆる現状が検討されていることを示している。

リビアがうまく100万バレルまで増加させた一方、イランの輸出拡大はバイオンテック下で勢いづくかもしれない。非OPECの各産油国は2021年100万バレル増産する見通しだ。

OPECプラスが2021年の生産量を前年から横ばいの4050万バレルで維持した場合、新型ウイルスのパンデミックで増大した在庫はほぼすべて排出されるかもしれない。

あるアナリストは、ワクチンの大規模な展開により経済・社会的活動が2021年半ばから正常に戻る可能性があるが、バイオンテックが共同で

価格の持ち直しは当然、需要の回復を前提としている。

バイオン氏は事業活動を正常化させる、最終的に需要を高める可能性のある米国の新型ウイルスに関する検査や予防への協力的なアプローチの強化を約束し

バイオンテックが共同で

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年 11月 20日

担当者: 岩崎

OPEC 10月は前月比21万^{バレル}増 原油生産量4カ月続伸

【ロンドン】OPEC(石油輸出国機構)の原油生産量が10月、4カ月連続で増加したことが明らかになった。情報筋によると、OPEC13カ国は6月

の1991年以来の最低水準を220万^{バレル}を上回り、前月比21万^{バレル}増の2459万^{バレル}に達したという。

リビアが輸出タリミナルの封鎖解除により前月比25万^{バレル}増のほか、イラクも輸出量増により各産油国で2番目の大幅な増加となり、OPEC全体の生産量を押し上げた。またサウジアラビアとクウェート、イランは前月比ほぼ横ばい。8月の過剰生産相殺のため、追加減産を継続しているUAE(アラブ首長国連邦)はOPEC最多の減少となった。リビアやイランと同様に減産が免除されているベネズエラでも減った。

一方、協調減産に参加しているOPEC10カ国の順守率は10月、前月とほぼ変わらず101%だったという。



TDB 景気動向調査(全国) — 2020年10月調査 —

2020年11月5日
株式会社帝国データバンク データソリューション企画部
https://www.tdb.co.jp
景気動向オンライン https://www.tdb-di.com

国内景気は低水準ながら緩やかに持ち直し

～ 今後の感染状況により下振れリスクも依然大きく ～

(調査対象 2万 3,695社、有効回答 1万 1,448社、回答率 48.3%、調査開始 2002年 5月)

調査結果のポイント

- 2020年10月の景気DIは5カ月連続で前月比プラス(2.2ポイント)の33.8となった。国内景気は、生産・出荷や個人消費が上向き、低水準ながらも緩やかに持ち直してきた。今後の景気は、新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動再開のバランスに慎重に対応しながら、緩やかに上向いていくとみられる。
- 10業界中『その他』を除く9業界、51業種中46業種でプラスとなった。『製造』では自動車関連を中心に持ち直しが継続したほか、『サービス』は「旅館・ホテル」が大幅なプラスとなった。
- 『北関東』『近畿』『九州』など全10地域、42都道府県がプラスとなった。堅調な公共工事が地域経済を下支えたことに加え、地域間で人の移動が増えてきたことで地方圏を中心に観光関連が上向いた。「大企業」「中小企業」「小規模企業」がいずれも5カ月連続でプラスとなった。

< 2020年10月の動向 : 持ち直し >

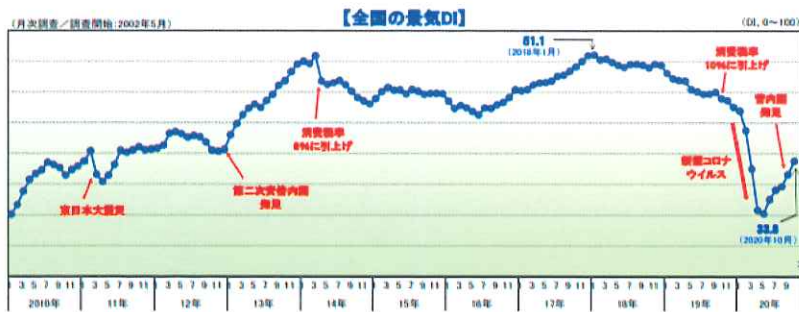
2020年10月の景気DIは5カ月連続で前月比プラス(2.2ポイント)の33.8となった。10月の国内景気は、安定した天候が続いたなか、人の移動も徐々に戻ってきたこともプラス要因となり、低水準ながら企業の生産・出荷や個人消費が緩やかに上向いた。また、堅調な公共工事に加え、自宅内消費が引き続き活発だった。観光関連では、各種施策による影響もあり、地方圏を中心に旅館・ホテルの設備稼働率や販売単価に回復傾向がみられた。他方、感染予防対策による売り上げ減少やコスト負担増のほか、民間設備投資に対する慎重姿勢が継続する動きもみられた。

国内景気は、生産・出荷や個人消費が上向き、低水準ながらも緩やかに持ち直してきた。

< 今後の見通し : 緩やかな上向き >

今後1年程度の国内景気は、新型コロナウイルスへの対策を進めながら、新しい生活様式に対応した需要の創出が期待される。またレジャー関連や海外からの訪日客の受け入れ再開など、個人消費の持ち直しが見込まれる。さらに挽回生産や自国生産の拡大による設備投資や輸出増加などもプラス要因となろう。他方、今後の感染状況により消費者マインドの後退や雇用・所得環境の悪化、政府による活動自粛の再要請など、下振れリスクも大きい。また米大統領選の行方や海外の感染拡大による回復の遅れなども注視される。

今後の景気は、新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動再開のバランスに慎重に対応しながら、緩やかに上向いていくとみられる。



※景気予測DIは、ARIMAモデルに経済統計を加えたStructural ARIMAモデルで分析

2020年 //月 24日 担当 小松

ウメト インフオメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年 11月 20日

担当者: 岩崎

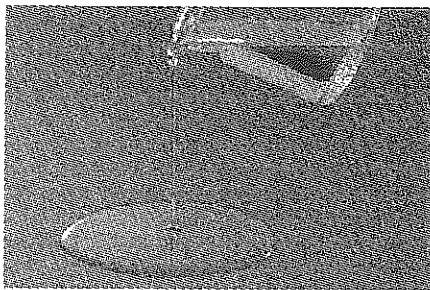
多分岐高級アルコール・脂肪酸

日産化学が新規誘導品

低誘電特性など付与

日産化学は、多分岐高級アルコール・脂肪酸「フラインオキソコール」の新規誘導品を開発した。官能基を2つ持たせた誘導品で、ポリエステル、ポリウレタン、ポリアミド向け樹脂原料としてアジピン酸やセバシン酸などの直鎖二塩基酸の代わりに使用できる。新規誘導品を樹脂原料として用いることで重合したポリマーに多分岐製品が有する低誘電特性、撥水性、結晶性低下などの優れた特徴を付加できると期待されている。とくに5G（第5世代通信）対応の低誘電樹脂原料などへの用途展開を目指す。

代替を酸塩基を
原料に樹脂まこの直鎖



確保し続けている。

現在、フラインオキソコール製品群の主な用途としては、化粧品、潤滑油などの各種エステル原料や接着剤、界面活性剤などがある。最近では、同製品を変性した誘導品が低誘電特性を有することから、電子材料用接着剤としての用途も広がる。今回、新たに官能基を2つ持たせたジオール「フラインオキソコール220-IDEA」と二塩基酸「ジエチルグルタル酸」を開発した。従来品は分子中に水酸基やカルボキシル基などの官能

フラインオキソコールは完全飽和型・多分岐型の液状・高級アルコールおよび脂肪酸。天然物やその他の化学合成品は主に直鎖構造をしているの

に対し、同製品は分子中に多くのメチル分岐を持つユニークな構造をして

酸化性・耐候性④有機溶媒との相溶性①など、他の高級アルコール・脂肪酸にはない優れた特徴を有する。

日産化学が石油化学事業を手がけていた1997年に製品化された。その優れた特徴から上市後半世紀の間、継続的に新規誘導品や新規用途を生み出し、安定した需要を

日産化学としては今後新規誘導品、新規用途を創出し続けることで化学事業の安定収益に貢献する「長寿命製品」に

期待されている。業の成長に弾みがつくと

基を一つしか持たない。新規誘導品は二官能基化しているため、変性させることなくそのまま樹脂原料として使用できる。現在、ポリエステル、ポリウレタン、ポリアミドなどには樹脂原料としてアジピン酸やセバシン酸などの直鎖二塩基酸が使用されている。二官能基化誘導品を従来の直鎖二塩基酸の代わりに樹脂原料として用いることで、重合後のポリマーに新規誘導品が持つ低誘電特性、撥水性や多分岐がもたらす結晶性抑制効果による成形性向上など優れた特徴を付加できると見込まれている。5G対応の低誘電樹脂原料などの用途で展開できれば、